

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2692700053 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 成光苑 | | |
| 事業所名 | グループ・ホーム 舞夢 (舞夢1丁目) | | |
| 所在地 | 京都府舞鶴市宇桑飼上小字深田1088-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年6月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、馴染みの方々と共に生きる喜びを感じ、生活意欲をもって暮らしていただく支援を目指します。ご家族の緊急時には、精一杯サービスの調整に当たり要望に応えられる対応に努めています。また、スタッフ一同独自の内部勉強会の実施や認知症研修参加によって、知識の向上や個別対応の工夫を勉強しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2692700053-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年3月17日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開設後5年が過ぎ利用者が重度化する中にありでできる事に個人差が出てきていますが、今年度は利用者の声に応じて全員での一泊旅行を実現しています。在宅での暮らしと同じように午前中は朝食の片付けや掃除、洗濯などの家事を其々ができることを分担したり、利用者が使いやすいよう低く作られたキッチンでの食事作りやパッチワーク、編み物など利用者が得意な事を日々の暮らしの中で引き出し、その人らしく暮らせるよう支援しています。また職員は各委員会活動を通して学ぶ機会があり、言葉遣いについての意識調査から拘束の無いケアや接遇について深く学び、日々の支援に活かしています。また庭の草刈りや掃除、傾聴などのボランティアに老人会の協力を得たり、水害時には地域の方を受け入れる避難所になるなど、地域と相互に良好な協力関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『「地域とともに」そして舞鶴市民にとって「あってよかった施設」と思われる取り組みへのチャレンジ』『ご利用者が「主役」の「人生の舞台」をここで』を理念として掲げている。理念は介護ステーションに掲示をし、日々のミーティングなどで理念に沿った支援が提供できるように取り組んでいるか確認している。 | 施設の理念の基、どのような支援をしたいか等を職員間で話し合い「親切、ていねい、思いやり、利用者の身になって」と独自のスローガンを掲げています。毎月のユニット会議時などの際に唱和し意識づけしたり、管理者は個々の職員に聞き取りを行い実践できているかを確認しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 家族交流会の実施、地域行事、自治会の行事取り組み、学校等との交流に努め、積極的に参加している(夏祭りの開催、ボランティア活動への参加等)。 | 地域のふれあいサロンや祭り、由良川の船漕ぎレースの応援に行ったり、近隣から花をもらうなど交流しています。体操ボランティアの他、広い庭の草刈りや掃除、傾聴などは老人会が担っており、餅つきや夏祭りなどの行事にも来てもらい、幅広い協力を得ています。また定期的に小学生や中学生との交流の機会も持っています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護職員初任者研修や実施認知症サポーター養成講座の開催を行なっている。また学童児童を対象とした認知症サポーターキッズ養成講座を開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行政の担当者や民生委員等の参加を得て開催し、また利用者状況や活動報告をすることで良きアドバイスや意見を頂き、見直しや改善、確認をさせて頂いている。 | 会議は民生児童委員や区長、市職員、時には地域包括支援センター職員などの参加を得て隔月に開催しています。ホームの取り組みや前回の意見の改善などを報告し、意見交換をしています。地域行事への声掛けをもらい参加したり、会議の参加者を増やす為の意見をもらい次年度の取り組み課題とするなど運営に活かしています。 | 運営推進会議に家族が参加できるよう、家族が行事に来られた際に開催するなど、工夫されてはいかがでしょうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の参加を得ています。包括支援センターからの地域の情報収集にも努めている。また、入内な事故等あれば市担当者へ確実に報告を行っている。 | 担当者とは特定のメール便でやり取りしたり、分からない事は電話で相談しています。また運営推進会議は市担当者の参加があり、事業所の実情を知ってもらうと共に、グループホーム連絡会にも市職員の参加があり連携を図っています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人のリスクマネジメント委員会が抑制廃止宣言を行い、委員会による個々の職員に身体拘束に対する意識調査を行うなど身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | 身体拘束に関する研修の受講やリスクマネジメント委員会が中心となり、言葉について職員に意識調査を行うなど拘束の無い暮らしの支援に取り組んでいます。法人内の職員がホームで検食する際に対応をチェックしたり、介護相談員からも意見を聞いています。玄関は施錠していますが、広いフロア間は自由に行き来でき、広い庭など外に出る機会を多く持ち拘束感がないよう支援しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止については、法人の内部研修にて全職員が学ぶ機会を持っている。日々関わる職員については毎月のユニット会議で気になる事があれば意見交換を行っている。 | | |

グループ・ホーム舞夢(舞夢1丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 具体的に必要に迫られたご利用者があり、行政の方々からも直接協力や助言をいただきながら必要な方にはそれらを活用できるように支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 施設に来所・見学してもらうことにより、ご利用者や家族に納得していただくように勤めている。解約も家族やご利用者と相談しながら一番良いサービス内容を検討している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族交流会にて機会を設けている。また面会時には家族とのコミュニケーションを図り情報交換している。 | 利用者の意見は日々の関わり中や介護相談員、傾聴ボランティアを通して聞いたり、家族の意見は面会時や電話、年に1度の家族交流会の日などに聞いています。遠くに行きたいと利用者の声を受けて全員での一泊旅行が実現したり、喫煙の希望では医師と相談し、日に数本のたばこを楽しんでもらうなど、意見や要望はサービスの向上や運営に活かしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業計画策定前に各部署より計画案を提出し、年間計画に職員の意見を反映させている。 日々のミーティングや、毎月の合同ユニット会議を開催し、意見交換やご利用者の状況把握、介護や意識の統一を図っている。 | 日々のミーティングやユニット間の合同会議では事前にテーマを決め職員にアンケートで意見を募ったり、司会や書記を交代制にし意見を出しやすいよう工夫しています。職員は業務改善について提案したり、衛生管理や行事など様々な委員会活動を通して積極的に意見や提案を出しており、意見を取り入れながら運営に活かしています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々に年度の目標を記したチャレンジシートを作成し、日々取り組んでいる。また担当制により各自の役割を明確にして能力開発ややりがいを見つけてもらう努力をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画を策定し、計画的研修参加を行っている。 認知症の内部研修、研究発表など学ぶ機会は豊富である。(課題別研修プロジェクト、法人研修発表、など) | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 行政や関連団体が開催する。様々な研修に参加し、交流や意見交換を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 受け入れの段階で、必要な情報についてはご本人やご家族より可能な限り得るようアセスメントを行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 不安を解消して頂ける様に重要事項説明や情報提供を行い、信頼を得られるよう努力している。また、受け入れ時に趣味、嗜好、生活習慣や家事などの実施状況を伺い、ご利用者の生活暦の把握に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他のサービス利用も含めた対応を考え、必要に応じて他のサービスの紹介も行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者の豊富な知識、経験を認識し、食事作りや洗いの、洗濯たたみ等ご利用者と一緒に行うようにしている。共に活動し、見たり聞いたり感動することで信頼関係の構築を目指している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には家族とのコミュニケーションが取れるように努めている。また、何かあれば家族への電話連絡を行ない状況報告に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 仲間作りや外出によって交流が途切れないよう努めている。 | 以前利用していたスーパーや道の駅などと一緒に出掛けたり、自宅の様子が気がかりな方と家を見に行くこともあります。また家族と墓参りに行く方や職員が付き添うこともあります。友人などの来訪があった際にはおやつと一緒に食べてもらったり、ホームの行事毎に知り合いが来る方もいます。また年賀状の投函を支援したり、いつでも連絡が取れるよう居室に電話機や携帯を持つ方もおり、関係が継続できるよう支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常の関わりの中から把握し、セミプライベートゾーンの席の配置など個々のご利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。 | | |

グループ・ホーム舞夢(舞夢1丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご本人やご家族の希望を確認しながら、必要にが有れば関係機関への連携を行なっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の細かな発言内容を大切にし、出来るだけ思いに応えられるよう努めている。 | 入居時に利用者や家族から聞いたこれまでの暮らしや仕事、生活習慣などの情報を基にアセスメントを行い思いを把握し、入居に至るまでに全職員が目を通して情報を共有しています。把握が困難な場合は担当者が職員から情報を集め、毎月のカンファレンスやサービス担当者会議で思いが汲み取れるよう話し合っています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時には、ご利用者の暮らしや、生活歴を把握し日々の対応に生かすようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝のミーティングや合同ユニット会議などで意見交換を行い、スタッフの意識の統一を図っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に1回担当者会議と合同ユニット会議を開催し、介護計画書の作成と、介護計画書がご利用者の状況に合っているかカンファレンスを行ない検討している。 | アセスメントを基に意向に沿った介護計画を作成し3ヶ月毎に担当職員がモニタリング及び再アセスメントを行い介護計画を見直しています。見直しの際には看護師や管理栄養士も参加するサービス担当者会議を開き、意向に沿った計画となるよう話し合っています。また職員から見直しについて声があったり、状態に変化があった際は随時計画を見直しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | パソコン内の個々のケース記録に入力している。また引継ぎノートに何かあれば記入し、休みの職員にも情報がわかるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 食事の献立も出来る限りご利用者の希望に沿ったものが提供できるように日々のコミュニケーションの中から決めるように努めている。 | | |

グループ・ホーム舞夢(舞夢1丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の傾聴ボランティアに入って頂き、職員に言いにくい希望や要望などが無いか聞いていただき、報告を受けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時にご本人、家族の希望を聞き、主治医を決定していただいている。必要な方には医療機関への送迎や付添等の対応を職員が行っている。 ご家族や主治医とは必要な連携をとるよう努めている。 | 入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが、現在は全員の方が協力医に診て貰っています。協力医は月に1~2度の往診の他、毎週併設の他事業所への往診もあり、定期以外にも診て貰う事が可能です。また必要な方は歯科の往診を受けたり、外部の専門医への受診は家族が対応し、状況によっては職員が付き添っています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体施設の医務室と連携しながら、必要に応じて助言や意見をいただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時は、家族や医療ソーシャルワーカーとの連携を行い、退院後の受け入れについてスムーズに行えるよう退院前カンファレンス開催を依頼し、情報収集とケア内容の確認を実施している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご利用者の状態が急激に悪化することが見込まれる場合、主治医や看護師、ご家族と事前に今後の支援体制について話し合いを行うことにしている。ご本人やご家族の希望があれば、施設での看取りが行える体制を構築している。 | 入居時に医療が必要でない場合は終末期支援ができる事を説明し、最期の迎え方について確認しています。これまでも支援の経験があり、医師の説明の下、家族と方向性を話し合い進めています。家族がいつでも泊まれる部屋を準備したり、職員は個々のケース毎に緊急時対応などの勉強会を持っています。また管理者が24時間いつでも来れる体制を取り、意向に沿った支援に取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルやASMチェックシートで対応できるように統一している。 管理者の命令により、消防署等で開催されるCPR訓練に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、施設全体で防災訓練を行っている。 | 年2回併設施設と合同で夜間を想定した避難訓練を実施し、通報や初期消火、避難誘導などを利用者と共に行っています。施設全体で協力体制を作り、オール電化や防災カーテンなど、火が出にくい設備を整えています。水害時には地域の方を受け入れる避難所になっています。現在、地域と一体となった訓練ができるよう消防団に働きかけています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 法人の新人職員研修時に利用者に対する言葉遣いや言葉の抑制について、個人情報について指導を行っている。また法人のリスクマネジメント委員で自己の意識調査を行うなど自分自身振り返る機会を持っている。 | 利用者の尊重などは理念の中にも謳っており、入職時研修でも接遇や個人情報について学ぶ機会があり、全職員に周知しています。また職員は毎月接遇について自己評価や他者評価を受けており、個々に対応を振り返っています。日頃は利用者への挨拶や言葉遣いに注意しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個人の能力に合わせてコミュニケーション取り方を工夫し、個々の希望を言っていただけるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個別に興味のあること得意なことやりたいことを聞き出し、対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみはその都度チェックしている。入浴時には自分で着たい服を選んで頂くように努めている。 定期的に移動理美容サービス(外部業者)利用いただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る方々と一緒に準備・後片付けを行っている。献立についても日々の会話の中でご利用者の要望を取り入れるようにしている。また定期的に鉄板行事やおやつ作りも行なっている。 | 食事は季節の物を取り入れ、目でも楽しめるよう見た目にも配慮しています。キッチンが利用者を使いやすい高さに作られ、利用者の参加したい気持ちを大切に一緒に作っています。誕生日は食べたい物を聞いて提供したり、流しそうめんや庭でのバーベキュー、フキトウの佃煮作りなどを楽しんでもらっています。職員は各テーブルに着き、声掛けや介助をしながら利用者を見守っています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々に食事摂取量を記録し確認している。希望や必要に応じて管理栄養士の指導のもと食事量の調整や形態の工夫を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨きセットをご持参いただき朝・夕(必要な方には昼)に行なっている。歯ブラシの使用が難しい方は、ガーゼ等の用具を使い航空清拭を行っている。 | | |

グループ・ホーム舞夢(舞夢1丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に支援している。失敗などがあればご本人のプライドを損なわないよう迅速に片付け、支援している。排泄チェック表を用い個々の排泄パターンをつかみ援助している。 | 記録を基に個々の排泄リズムを把握したり、排尿のサインや食事、水分補給の前などにも声を掛けています。各居室にはトイレがあり、日中は全員の方がトイレでの排泄を支援しています。職員から排泄用品の変更について声がかかる事もあり、本人に合った用品について話し合っています。またオムツを使用の方が支援の結果、トイレで排泄できるようになり布の下着に変更になるなど自立に向かうよう支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表で排泄の様子を確認できるようにしている。食事の献立は管理栄養士に確認いただきアドバイスを受けるようにしている。毎朝ラジオ体操を行なう等運動も心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご本人の希望によって入浴の時間帯を決めていただいている。 | 入浴は週3回を目安に支援し、利用者に順番を決めてもらったり、夏場などは毎日入りたい方もおり、シャワー浴で対応しています。また浴室には専用の庭があり雪を見ながら入ったり、安定して入ってもらえる機械浴の設置もあり、重度の方も安心して入ってもらっています。入浴を拒む方には入りやすいよう曜日を決めたり、工夫しながら無理の無いよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者の様子を観察し、声かけや、促しを行っている。可能な限り自宅に近い環境に配慮したり、温度、湿度等も配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師を中心に、薬の情報の内容の把握に努め、与薬も毎日担当者が最後まで確認し、チェック表で服薬確認するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者の暮らしや、生活暦を把握したり、日々の関わりの中からその方の趣味や好みを把握し、日々の対応に生かすように努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 計画性のある外出行事が出来るように起案を立て、ご本人やご家族にも確認をしながら行なっている。外出の目的地に事前連絡をし様々なサービスを確認し利用するように努めている。(入館料の免除など) | 季節毎に桜やアジサイ、コスモスなどを見に出かけたり、今年度は利用者の声を受けて全員での一泊旅行を実現しています。日々は近隣への散歩やドライブ、少人数でショッピングモールに出かけ、買い物や外食を楽しんだり、ホームの広い庭で花や野菜の世話や弁当を作って食べることもあり、外気に触れる機会を多く持っています。 | |

グループ・ホーム舞夢(舞夢1丁目)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で金銭管理の出来るご利用者に関しては自己管理して頂き、希望の物があれば購入の支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望者に対して携帯電話の利用、自室への固定電話設置ができるよう配慮している。また、家族からの外線電話入電時は、ご本人がゆっくり話せるよう、自室で使用してもらえるようコードレス電話を設置している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気や、季節感のある環境づくりに配慮している。セミプライベートゾーンから庭に出て職員と一緒に日向ぼっこや洗濯干しをして頂いたりしている。 | 広いリビングは明るい色のクロスを掛けたり、行事の写真や利用者手作りのパッチワークや毛糸のカバーなどが多く置かれ、温かみを感じられる家庭的な空間となっています。ソファの配置や畳のスペース、玄関に置かれたソファなど、利用者が好きな場所で過ごせるようにしています。また広い庭やテラスに出て過ごしたり、暑い時期はゴーヤのカーテンで日よけを作っています。乾燥しないよう加湿器を多く置き、快適に過ごせるよう配慮しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | セミプライベートゾーンのテーブルの位置や距離に配慮したり、ソファを置くなどし、それぞれ好きな所で安心して過ごしていただけるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は全個室で、それぞれ部屋に洗面台とトイレがある。また、事前にご本人やご家族に必要があれば自宅の使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝えている。 | テレビや冷蔵庫、電話機や携帯電話等、使い慣れた物や必要な物を持ち込まれています。居室では位牌に毎日お茶を備える方や趣味の植物の世話、編み物や日記をつける方、ほうきで掃除をする方など、生活習慣を継続でき安心して過ごせるよう支援しています。また庭に面した居室は掃き出し窓になっており、明るく開放感がある造りになっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室に名札をつけたり、トイレの場所が分からない方には、トイレの扉に表示する等視覚的認知が容易になるよう工夫している。個々の利用者の残存機能を活かし、調理や家事に参加していただいている。 | | |